

II 特別連載 II

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

### 愛媛大学の活動報告



榊原 正幸  
(愛媛大学  
大学院理工学研究科  
・社会共創学部教授)

#### インドネシアから招へい

#### エネルギー開発と高度医療学

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、招へいプログラムの対面での実施は約3年ぶりとなりました。来日を心待ちにしていたインドネシアの2つの大学から学生をそれぞれ10名ずつ招へいました。

2022年11月9日から15日の7日間、インドネシア国立ゴロンタロ州大学の工学部、理学部等から選ばれた優秀な学生を招へいし、愛媛県における伊方原子力発電所の訪問および、日本とインドネシアにおける持続可能なエネルギー開発を題材にして、科学技術イノベーションの現状と課題を学びました。インドネシアでは原子力発電に対する関心が年々高まっており、その建設について賛否両論があるものの、東日本大震災以降の日本における原子力発電の安全性に注目しています。今回のプログラムでは、伊方町及び伊方原子力発電所へ訪問し、日本におけるエネルギー開発の現状と課題について学びました。

ゴロンタロ州大学の学生は、全員が初めての海外訪問にもかかわらず、柔軟に異文化に適応しながら、英語でのコミュニケーション、ディスカッションを重ね、その能力は日々研さんされていきました。それは受入側の本学部生にも良い影響をもたらし、ゴロンタロ州大学の学生への日常生活のサポートのみならず、日本人として本プログラムのテーマに沿った問題提起を行い、双方の議論を深める良い機会となりました。また、SNSを通じての交流は招へいプログラムが終わった後も続いており、愛媛大学が開催した「オンラインウィンタースクール」に複数名の学生が参加しました。

2022年12月7日から13日の7日間、イ

プログラムスケジュール(ゴロンタロ州大学)	
1日目	松山空港到着 愛媛大学にてオリエンテーション等
2日目	伊方原子力発電所ならびに 伊方ビジターズハウス訪問見学
3日目	特別講義：持続可能な開発と科学技術イノベーション
4日目	特別講義：日本における生活習慣 カルチャーショックへの対応 愛媛大学社会共創学部生との交流
5日目	本事業の成果発表会の準備 松山市内での異文化体験(松山城)
6日目	成果発表会、修了式および送別会
7日目	松山空港発、帰国

プログラムスケジュール(ハサヌディン大学)	
1日目	松山空港到着、愛媛大学にてオリエンテーション等
2日目	特別講義：日本における生活習慣 カルチャーショックへの対応 特別講義：持続可能な高度医療技術と科技イノベ
3日目	特別講義：日本における高度医療技術とその実践 特別講義：持続可能な高度医療技術と科技イノベ
4日目	本事業の成果発表会の準備 愛媛大学社会共創学部生との交流
5日目	愛媛大学の大学院生及び学部生との交流 松山市内での異文化体験(松山城)
6日目	愛媛大学医学部訪問、成果発表会、修了式、送別会
7日目	松山空港発、帰国

インドネシア国立ハサヌディン大学の医学部と公衆衛生学部から優秀な学生5名ずつ招へいし、愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターならびに、愛媛大学総合健康センターを訪問しました。

開発途上国であるインドネシアですが、現代的な食生活やライフスタイルから糖尿病等の生活習慣病の発生率が高い状況にあります。学生は、日本における公衆衛生と高度医療技



愛媛大学医学部訪問(2022年12月12日)



伊方発電所訪問(2022年11月10日)



伝統舞踊を披露するハサヌディン大学生(2022年12月12日)



愛媛大学生とのディスカッション(2022年11月12日)

期待します。さいごに、本プログラムは、科学技術振興機構(JST)さくらサイエンス招へいプログラムの支援がなければ実現せず、多大な支援に感謝します。

それぞれ非常に充実した一週間となり、全員が再来日の希望を胸に帰国しました。また、本学の学生にも良い影響をもたらした、インドネシアに行きたいという声も上がりました。本プログラムでの体験が今後の大学での学びや社会生活で活かされること、また、相互に留学生として、もしくは研究者として交流が続くことを期待します。

術を通して生活の質を向上させながら健康を追求するために必要な課題を学びました。また、本学医学部ではVRを用いた研修、安全衛生についての講義、高度医療研修システムの体験等、有意義な時間を過ごしました。特別講義では、日本における神経疾患および生活習慣病に対する高度医療技術とその実践について学び、また、糖尿病と睡眠との関連性について学び、知識を深めました。学生たちは積極的に講義に参加しました。愛媛大学の学生とのディスカッションでは、インドネシアと日本の健康保険制度、医療制度の違いを学びました。本プログラムで習得した知識、体験はいずれも、彼らの大学また医療の現場で活かされることを期待します。

参加者の声

清潔で、私の想像を超えていた。  
○日本人の規律正しさなど、多くのカルチャーショックを経験した。  
○本事業が、これからも海外の多くの学生を刺激し、参加できるようにすることを願う。  
○将来、日本でより良い共同プログラムを作りたい。  
○インドネシアでは得られない文化や経験、技術など、多くのことを学ぶことができた。このプログラムが、学生の勉強意欲を高め、母国でもその知識を共有できるようなものになることを願っている。  
○日本の文化や先進的な医療技術など、母国に持ち帰って日常生活で活用できることをたくさん学ぶことができた。将来、愛媛大学の学生や研究者としてこのような機会に恵まれることを願っている。

受入側の声

○学生の目が輝いており、我々もそれに応えなければという気持ちになり、とても楽しかった(教員)。  
○英語でのディスカッションや発表能力が優れていて刺激を受けた(学生)。  
○今度は自分たちがインドネシアに行き、国際交流を続けたい(学生)。